

2021. 11. 21 (日) マタイ 27:51~54

27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、
27:52 墓が開いて、眠りにっていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。
27:53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。
27:54 百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

<説教>

主イエス・キリストは十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と大声で叫ばれ (27:46)、その後「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」(ルカ 23:46)と再び大声で叫んで霊を渡されました(つまり死なれました)(27:50)。

このようにイエスのご自分の父なる神に全く信頼し、お従いになり、私たちの罪のためのいけにえとして(自ら十字架の上で私たちの罪をその身に負われ)(I ペテロ 2:24)、ご自身を罪のためのいけにえとして神にお献げになったのです。

そうやってイエスのご自分の父なる神のみこころに従い、みこころを行われました。

それは(死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。)(ヘブル 2:14b-15)

(死の恐怖によって生涯奴隷としてつながれていた人々)とは私たちに他なりません。

そんな私たちが(みな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちにな)ったのです(ヘブル 2:14a)。

そのように、十字架で死なれたイエスは(死の力を持つ者、すなわち、悪魔)に対する完全な勝利者であられました。

悪魔に対してそのように勝利できるのは真の神のほかは誰もいません。

ですから、神十字架で死なれたイエスは私たちと同じ(血と肉を持っている)人間でありながら、そのような人間となられた神であり、殊に三位一体の第二位格なる(神の子)なのです。

本当の人として死なれたイエスは(本当に神の子)(27:54)なのです。

本日の聖書箇所でもマタイが書き記した不思議な出来事は、そのイエスの十字架の死に際して起こったことでした。

27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、
27:52 墓が開いて、眠りにっていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。

27:53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。

(裂けた)、(揺れ動)いた、(裂け)た、(開い)た、(生き返った)と訳されたこれら全ては「~された」という受け身形(受動態)で書かれています。

これら不思議なことは神によって、神の力によって起こされたということです。

それでマタイは(見よ)と言います。

「この(これらの)不思議な、偉大な、驚くべき出来事を見よ。見て、十字架で死なれた神の子イエスの力に心をとめよ。悪魔の(死の力)に打ち勝ったイエスの十字架の(死

の力)を見て、驚き、イエスを〈神の子〉と認めよ、告白せよ。」そんなふうに言っているように思います。

まず〈**神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。**〉(27:51a)とあります。

〈**神殿の幕**〉とは当時〈**神殿**〉の聖所と至聖所の間にあった「垂れ幕」でした。

至聖所には祭司たちの中でも一人大祭司だけが、年に一度だけ贖罪日といわれている日(今の9～10月の10日)に罪の贖いのために動物のいけにえの血を携えて入ることが許されていました。

そのようにして大祭司は自分も含めた神の民全体の罪を神に告白し、罪の贖い(贖罪)つまり赦しを神に願い祈るのです。

〈**神殿の幕**〉はそのように罪人は聖なる神の前にはそのままでは出ることができないこと、神に近づき神に受け入れていただくためには大祭司による贖罪が絶対に必要なことを表すものでした。

そういう〈**神殿の幕**〉が〈**上から下まで真っ二つに裂けた**〉ということは、十字架で死なれてご自分の体を裂かれ、血を流してくださったイエスが唯一の真の大祭司として〈**神殿の幕**〉を〈**上から下まで真っ二つに裂**〉いてくださったということです。

イエスはご自分を私たちの罪を贖ういけにえ、神への献げ物として、〈雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。〉(ヘブル9:12)

〈私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。〉(ヘブル10:19-20)ということなのです。

続けてマタイが記したのは〈**地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。**〉(27:51b-53)ということでした。

〈**岩が避け**〉るほど激しく〈**地が揺れ動き**〉、地面や岩を掘って作られていた〈**墓が開いて**〉しまった、封印されて墓を守っていた石(cf.66)が壊れたり動いたりしたということでしょうか。

〈**眠りについていた多くの聖なる人々**〉とはどんな人々のことなのかは分かりませんが、〈**彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた**〉ことも実際どんな様子だったのかも分かりません。

しかし死んでいた彼らの〈**からだが生き返った**〉ことがイエスの十字架の死の時に起こったことは確かであり、それもイエスが勝利者であること、そして命であること、〈**神の子**〉であることを示しているのです。

しかしそのイエスの勝利はそのときはまだ人の目には隠されており、明らかになるのは確かに〈**イエスの復活の後**〉でした。

ただ、そのとき例外的になんと〈**百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たち**〉即ち異邦人たちが、イエスを〈**「この方は本当に神の子であった。」**〉と告白したのです。

マタイはそのことも驚きをもって〈**見よ**〉と同胞ユダヤ人たちに言っているようです。

そのとき弟子たちはすっかり沈黙しており、祭司長たち律法学者たち長老たちは「十字架から降りないで死んだイエスは絶対に神の子ではない」と言い張っていたのに。

〈百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たち〉の言葉がどの位の「信仰」のものであったのかも分かりません。

しかし〈イエスを見張って〉いた彼らの心を動かし、〈地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れ〉させたのも確かに〈本当に神の子〉十字架で死なれたイエスご自身でした。

本当に人として十字架で死なれたイエスは〈本当に神の子〉であり、勝利者なのです。

そのことを今や私たちこそは、私たち自身の心からの信仰告白として言い表さなければならぬのです。